

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 富良野東丘地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（各市町「田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

富良野市 大雪山国立公園、富良野芦別道立自然公園、東京大学演習林が隣接し、雄大な景観とさまざまな野生動植物が息づく豊かな自然環境に囲まれている。これらの自然環境は、地域住民の生活を豊かにするとともに、雄大な農地の背景を成す景観要素であり、彩り鮮やかに広がる農地と一体的に田園景観を形成している。また、特徴的な観光資源として活用され都市と農村の交流の場となっている。

中富良野町 雄大な景観と様々な野生動植物が息づく豊かな自然環境に囲まれ、町ではクリーン農業への取り組みがなされており、自然環境や景観などの地域資源の保全に対する機運が高まっている。

【課題】

富良野市 自然環境の破壊が懸念されるなか、農地や森林などの自然資源の積極的な保全と回復を行い、人と自然が共生できるまちづくりを進めることが重要である。

また、農村部での里山的自然や二次的自然に対する価値認識は低下しており、生態系を含めた多種多様な保全活動が必要である。

中富良野町 様々な分野と連携し支えあっていく総合的な環境保護・保全計画によって有効性ある環境保護対策を進めていくべきである。

具体的に、町環境保全条例の早期制定や、関連分野と連携した自然環境保護、公害防止、景観保護意識の向上等、広報PR活動を積極的に展開することが重要である。

《環境保全の基本的考え方》（各市町「田園環境整備マスタープラン」より）

富良野市 「持続可能な農地の保全と活用、森林の保全と育成」「魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成」の2つを基本方針に掲げ、豊かな「農村景観」形成の達成を目指すものとする。

中富良野町 豊かな自然環境と美しい風景を将来の世代に引き継いでいくため、自然と共存したまちづくりを推進する。

2. 環境配慮計画の策定に向けた調査

《基本方針》

○ 調査位置の考え方

本地区の耕地は、大部分が山地に隣接している。

このため、東大演習林等と連続している山地に隣接する耕地を代表的な環境として調査を実施する。また、水域については、地区の北側と南側で排水先となる河川が異なるため、それぞれの代表河川（布部川、西達布川）にて調査を実施する。

○ 調査項目の考え方

既往調査の情報が不足しているため、現地調査を実施する。

《環境調査内容》

○調査項目 ①鳥類 ②魚類 ③両生・は虫類 ④昆虫類 ⑤底生動物
⑥植物 ⑦水質

○調査方法	鳥	類	： ポイントセンサス法
	魚	類	： 採捕調査
	両 生 ・ は 虫	類	： 目撃法、フィールドサイン法
	昆 虫	類	： 任意採取法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法
	底 生 動 物	： 定性採集法	
	植 物	： 植物相調査	
	水 質	： SS、濁度	